

令和7年度 小樽市立望洋台中学校 学力向上改善プラン

1 生徒の実態

昨年度の標準学力調査結果では、正答率において数学が全国平均を上回り、国語は全国平均を下回った。国語の領域別における「自分の考えをまとめ表現すること」に課題が見られる。昨年度の全国学力・学習状況調査においては、論理的に図形の証明をするなど、記述に対しての苦手意識が見られる。

また、生徒アンケート「平日、どのくらい家庭で勉強をしているか」に対する回答において、1時間以上と答えた生徒の割合が52.8%であった。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト平均正答率を全道平均以上にする。
2年	・標準学力調査平均正答率を全国平均以上にする。
3年	・全国学力・学習状況調査結果を全国平均以上にする。

<数学科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト平均正答率を全道平均以上にする。
2年	・標準学力調査平均正答率を全国平均以上にする。
3年	・全国学力・学習状況調査結果を全国平均以上にする。

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・家庭学習時間 80 分を目標に取り組んでいる生徒を50%以上にする。
2年	・家庭学習時間 90 分を目標に取り組んでいる生徒を50%以上にする。
3年	・家庭学習時間 100 分を目標に取り組んでいる生徒を50%以上にする。

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①各学年の学力実態の推移の的確な把握
- ②教育課程、年間指導計画の改善による授業時数等の充実
- ③放課後学習、長期休業中学習会の充実
- ④定期テスト前の朝活動（朝学習）の取組
- ⑤シラバス提示による学習規律、学習方法、学習評価基準の明示

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①「小樽授業づくり5つのSTEP!!」の確立
- ②9年間を見通した望洋台小学校との連携
- ③自分の考えやその根拠を交流する場の効果的な設定
- ④ICT機器の効果的活用

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①シラバスによる家庭学習のあり方についての提示
 - ・1日の学習時間の目安（1年80分以上、2年90分以上、3年100分以上）
 - ・各教科における取組方法
- ②「おたるスマート7」の周知と徹底
 - ・HPや保護者会などを活用した啓発
 - ・スケジュール手帳の活用によるタイムマネジメント力の育成

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R7年 4月	・校内研修を通じた「小樽授業づくりの5つのSTEP!!」の確認 ・朝の活動の時間を利用した全校一斉の朝読書の取組開始 ・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題） ・スケジュール手帳の記入（ガイダンス） ○R7全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施（第2学年）
5月	○標準学力調査結果分析
6月	・テスト前スタディタイム（学習会）開催 ・学校評価・生徒・保護者アンケート・授業アンケートの実施と分析、生活実態の把握
7月	・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・夏休み学習会開催
8月	○R7全国学力・学習状況調査結果分析
9月	・テスト前スタディタイム（学習会）開催 ○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
10月	・校内研究推進（望洋台小学校と連携した授業交流）
11月	・テスト前スタディタイム（学習会）開催
12月	・学校評価・生徒・保護者アンケート・授業アンケートの実施と分析、生活実態の把握 ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施
R8年	・冬休み学習会開催
1月	・校内研修の成果と課題の整理→次年度の方向の決定 ・教育課程委員会が新年度教育課程改善案作成・決定
2月	・新年度校内研修推進概要確定 ・チャレンジテストの実施
3月	・テスト前スタディタイム（学習会）開催 ・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ○学力向上改善プランの評価・改善

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①標準学力調査、全国学力・学習状況調査の実施（4月）
チャレンジテスト、定期テストの実施と結果の検証（各学期）
- ②教務部会、教員アンケートによる教育課程の検証
- ③生徒アンケートの実施と結果の検証（7、12月）
- ④⑤授業アンケートによる検証（9月）

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①授業アンケートによる検証（7、12月）
- ②③④教員アンケートの実施、校内研修における授業交流や公開研究会による検証（10～12月）

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①②生徒アンケート・保護者アンケートの分析・報告（7、12月）